

(17)

極秘

五

部ノ内第 〇 號

第一問題

世界情勢判斷

昭和十七年三月十七日
連絡會議決定案

B 1.7.0.0 - 52

198

REEL No. A-1214

イ、米英側ノ執ルヘキ方策

米英ハ今後軍事の經濟的財政的其他各方面ニ於ケル協力を益々緊密化シ一體トナリテ樞軸國力ノ低下ニ努メツツ他面自己國力ノ急激増強ヲ圖リ先ツ其ノ對樞軸國爭指導ノ重點ヲ歐洲ニ置キ「ソ」聯ト相提携シテ該方面ノ戰局ヲ有利ニ展開セシムルト共ニ對日反攻進取據點ノ確保強化ニ努メ優勢ナル兵力ヲ保有スルニ至ラハ一舉對日反攻ヲ企圖スヘシ

即チ

- (一) 差當リ英ハ米「ソ」ト相提携ヘテ先ツ速ニ獨伊國力ノ破ヲ圖ルト共ニ地中海及西亞方面ヲ確保シ日露伊ノ提携阻止ニ努ムヘシ
- 尙英ハ東洋方面ニ於テハ對日反攻據點ニ英帝國結合保持ノ爲メ極力印度洋ノ制海權及印度並ニ滿洲ノ確保ニ努ムヘシ

- (二) 差當リ米ハ英「ソ」ト相提携ヘテ先ツ速ニ獨伊國力ノ破ヲ圖ルト共ニ滿洲及印度洋方面ニ於テハ對日反攻據點ノ確保強化ニ努メ且有力ナル海上及航空兵力ヲ太平洋方面ニ集中シ其ノ一部ヲ以テ我カ海上交通ノ妨害日本ノ中樞地區ニ對スル奇襲其ノ他各處「ゲリラ」戰ノ實施ニ努ムヘシ

- (三) 米英ハ「ソ」聯ニカヲ盡スヘク他方「ソ」ノ對日進取行動乃至ニ參戰ニ多大ノ期待ヲ掛ケ極力之カ實現ニ努メツツ差當リ密カニ京師之領ニ對日進攻據點ノ獲得ヲ策スヘシ

- (四) 米英ハ戰力向上ノ時機ヲ見テ對樞軸大規模攻勢ニ轉スヘク之カ爲日本ニ對シテハ「ソ」支ト提携シテ大陸方面ヨリ直接我中樞部ヲ衝クニ努メツツ主力ヲ以テ滿洲及印度洋方面ヨリ逐次戰略要點ヲ奪回反擊シ來

杯

濠洲ノ
強者ヲ
強ク

濠洲 (新西蘭ヲ含ム)ノ
優勢

戦力ニ
強ク

一、濠洲ハ専ラ米及英ノ援助ニ頼リテ戦力ノ増強ニ努メ飽ク進對日抗
戰繼續ヲ企圖スベシ

二、濠洲戦力増強ノ程度ハ濠ト米英間ノ交通路ノ狀況ニ依存スベク若
シ交通路ノ遮斷長期ニ亘ラバ増強ハ不可能トナルノミカ戦力ハ低
下スベシ

三、濠洲ハ漸次對英關係ニ於テハ自主的トナルベキモ對米依存ノ度ヲ
増スベシ

四、濠洲國防力ノ隘路ハ人口ノ少キコト及工業殊ニ重工業生産能力貧
弱ナルコトニ在リテ其ノ強味ハ衣食ニ關シテハ如何ナル長期戦ニ
モ對處シ得ル點ニ在リ

ル算大ナリ

而シテ其大規模攻勢ヲ企圖シ得ヘキ時機ハ概ネ昭和十八年以降ナルヘ

早見

~~大~~ ~~手~~ ~~海~~ ~~軍~~ ~~攻~~ ~~勢~~
~~の~~ ~~ナ~~ ~~リ~~
~~社~~ ~~会~~ ~~の~~ ~~シ~~ ~~テ~~ ~~我~~ ~~の~~ ~~強~~ ~~化~~

S-1.7.0.0-52

③ 印度ノ情勢

一 英米ハ印支ノ防衛ヲ強化スト共ニ印荷關係ノ正常
 化ヲ圖リ抗戰体制ノ保持ニ努ム
 二 今度印荷關係ハ極密トシテ同受汗運送業印
 海協三國ニシテ特ニ件々三國協定ニ依リテ
 化ス
 三 英米ハ印支ノ印荷關係ヲ利用シ米ノ支援ヲ得テ
 凡ソル手続ヲ急シテ印支民衆ヲシテ各極軸
 戦争ニ全面的ニ協力セシムルニ努ム
 四 印支ニ於テ及東運送業ハ極密トシテ同受汗運送業
 ニシテ三國協定ニ依リテ件々三國協定ニ依リテ

S 1.7.0.0 - 52 202

ソノ行内新々ニシテ其ノ積極化ヲ見ルノ可能性アリ
（ロ、ソ）「ソ」聯邦ノ採ルヘキ方策

一、「ソ」聯邦ハ世界長期戦化ヲ目途トシツツ米英トノ提携協力を強化シ

對獨抗戦ニ専念スルニ努ムヘシ

此間「ソ」聯邦ハ差當リ帝國ニ對シテ現狀ヲ維持センコトヲ努ムヘシ
（春季米英戰ノ推移ニ伴ヒ帝國ノ戦力カ低下シ又ハ其ノ彈

撥力ヲ失フニ於テハ米英ト連携スル「ソ」聯邦ノ對日參戰ヲ誘發スル

又我カ對「ソ」武力行使必至ト判断セル場合ニハ米ニ軍事基地ヲ供與

スルト共ニ彼ヨリ進ンテ機先ヲ制シ奇襲的攻撃ヲ敢行スルノ虞尠カラ

ニ東部「ソ」領ニ於ケル現兵力（狙撃師團約二〇 戰車約一、〇〇〇 飛

行機約一、〇〇〇）ハ日「ソ」間ノ現狀變化ヲキ限り本春以降ニ豫想セ

ラルル獨「ソ」戦況ノ推移如何ニ拘ラス大ナル變化ナカルヘシ

三、「ソ」聯邦ハ援蔣行爲ヲ續行スルノ外我領導下ノ諸民族ニ對シ主トシ

テ思想戰ニ依リ攪亂ヲ策スヘシ
四現情勢ニ於テハ獨「ソ」和平ノ可能性ナカルヘシ

ハ、獨伊ノ採ルヘキ方策

一、獨軍ハ本冬季節概ネ對「ソ」攻勢準備ヲ整ヘ得ヘク本年春夏ノ候ニ於テ對「ソ」攻勢ヲ再興スヘシ但本年中ニ「ソ」聯兵力ヲ徹底的ニ潰滅スルハ至難ナルヘシ又之ニ依リ「ソ」政崩壊ノ可成化ハ見
此間速カニ高架索ノ占領ヲ企圖スヘシ

二、獨ハ其ノ高架索作戰ノ進展ニ伴ヒ西亞ニ於ケル英勢力ノ一掃ヲ企圖ス
右作戰ノ規模及進展ノ態様ハ「ソ」軍抗戰力ノ恢復程度及獨軍ノ攻勢準備完整程度並土國ノ向背如何ニ際ルモノニシテ今遽ニ豫斷シ難シ

三、對英本土上陸作戰準備ハ依然之ヲ整ヘツツアルモ英ノ屈伏崩壊ノ徵到

來セサル限り當分進テ之ヲ敢行スルコトナカルヘシ

但大西洋方面ニ於テハ依然對英封鎖ニ重點ヲ置キツツ逐次對米海上交通破壞戰ヲ強化スヘク其效果ハ相當ニ期待シ得ヘシ

四、佛國ニ對シテハ逐次之ヲ樞軸陣營ニ包圍スルニ努ムヘシ

五、西歐勢ニ於テハ相シテ和平ノ可成性ナカルヘシ

ニ、重慶政權ノ動向

一、重慶政權ハ遂次抗戦力ヲ低下シ且其財政經濟状態ハ逼迫シアルモ尙
黨及軍ノ威力ヲ背景トシテ鞏固ナル抗日意識ヲ堅持シ反軸陣營ノ最
後ノ勝利ヲ期待シアルヲ以テ未タ容易ニ抗戦意志ヲ放棄スルニ至ラ
サルヘシ

而シテ其利益ノ所トシテ抑々民族トノ接近
松刺例ノ最果、極大

ニ米英ノ援蔭「ルート」ノ非難適其他米英「ソ」依存ノ類ミ難キ情
勢現出シ且我國力遞増スルヲ見支軍陣營ノ切崩シ功ヲ素ナルニ
至ラハ遂ニ其ノ抗戦體制ヲ動搖シ招來スルハシ

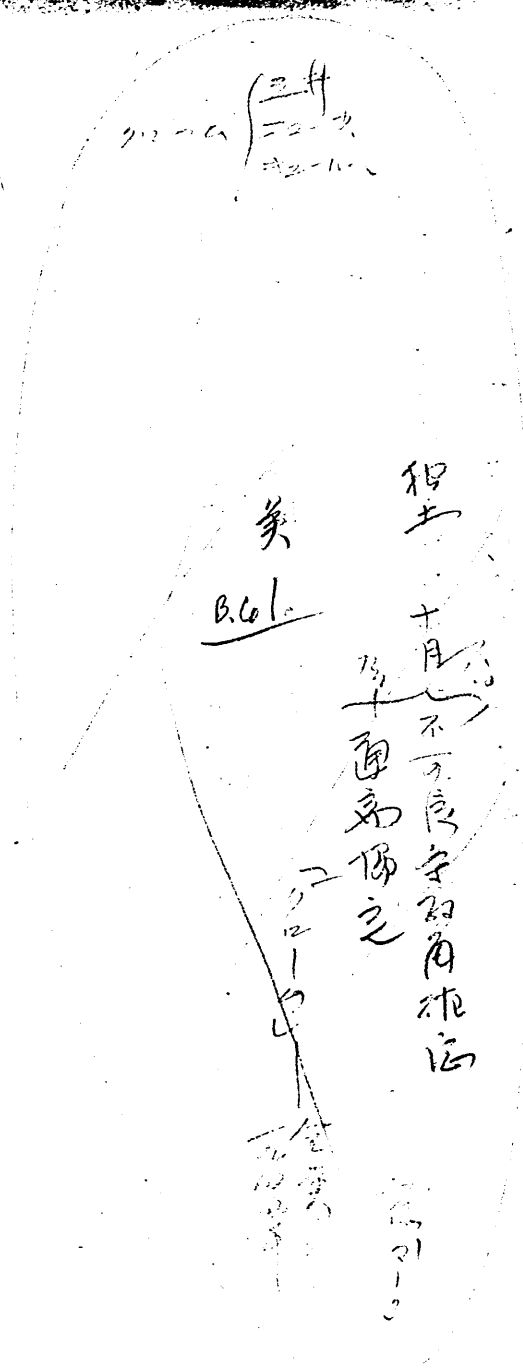
△「ルート」若シ抗日陣營ノ統一ニ努力スルハ「ソ」ト思ヘシ

8 1.7.0.0 - 52

ニ、重慶政權ノ動向

一、重慶政權ハ遂次抗戦力ヲ低下シ且其財政經濟状態ハ逼迫シアルモ
尙黨及軍ノ威力ヲ背景トシテ鞏固ナル抗日意識ヲ堅持シ反軸陣營
ノ最後ノ勝利ヲ期待シアルヲ以テ未タ抗戦意志ヲ放棄スルニ至ラ
サルヘシ而シテ此利益「ソ」締トノ提携強化及印度民族トノ接近
ヲ計ルト共ニ抗日陣營ノ統一ニ努力スルモノト認メラル
ニ米英ノ援蔭「ルート」ノ遮断、樞軸陣營ノ擴大其他米英「ソ」
依存ノ類ミ難キ情勢現出シ且我國力遞増スルヲ見ルニ至ラハ遂ニ
其ノ抗戦體制ノ崩壊ヲ招來スヘシ

標準規格 B5) 8 1.7.0.0 - 52 207



S 1.7.0.0 - 52 209

依然中立ヲ堅持スルニ努ムヘキモ本条以後獨軍ノ高築索作戰願ニ
 進歩スルニ於テハ樞軸側ニ參加スルニ至ルノ公算多シ
 英西國ノ動向
 西班牙ハ今直チニ樞軸側ニ參加シ得サル状態ニ在リ

ホ、中立諸國ノ動向
 一 佛國ノ動向
 佛國ハ依然灰色の態度ノ持續ニ努メ對獨協力ノ積極化ハ尙躊躇スヘ
 シ
 二 葡國ノ動向
 葡萄牙ハ表面其領土權カ尊重セラルル限リナルヘク長ク中立的の態度
 ヲ維持スルニ勉ムヘシ
 三 拉米ノ動向
 「アルゼンチン」「チリ」ハ差當リ中立的の態度ヲ維持スヘキニ事
 晩米ニ追従スルノ算大ナリ
 四 「トルコ」ノ動向

S 1.7.0.0 - 52 208

ハ、彼我國力推移

第一、米英ノ戦争遂行能力

一、米 國

米國ハ専ラ生産部門ノ隘路是正及國家總力戰態勢ノ確立ニ努力シ概
ネ一九四四年末期ニ至ル間其ノ軍備及軍需生産能力ハ飛躍的ニ上昇
スヘシ

然レトモ爾後ハ對外依存資源、勞力、輸送力等ノ不足ニヨリ生産力
ノ増勢漸次停滯ノ傾向ヲ示ス可能性アリ

二、英 國

現情勢ヲ以テ推移セハ今後尙若干ノ戦力ヲ増加スヘシ

然レトモ英本國ハ人的資源ニ於テ殆ント限度ニ達シアリ物的資源亦

海外特ニ米ニ依存セサルヘカラサル狀況ニアルヲ以テ制海權並恩領
植民地ノ喪失ニ伴ヒ逐次其ノ戦争遂行能力ハ低下ノ傾向ヲ示ササル
ヲ得サルニ至ルヘシ

三、米英戦争遂行能力ノ綜合的觀察

米英合作ノ戦争遂行能力ハ強大ニシテ我ニ對シ優勢ナル戦力ヲ急激
シ且長期ニ亘リ戦争ヲ遂行シ得ル能力ヲ有ス

其ノ戰意モ亦一般ニ旺盛ナルモノアリト雖モ左ノ如キ幾多ノ脆弱點
ヲ包藏シアリ

(1) 人的戦力ハ物的戦力ニ伴ハサルヘシ

(2) 物的戦力膨大ナルモ米英特ニ米ノ政治經濟機構ハ今尙國家總力戰
ニ必要ナル臨戰態勢ヲ整備シ居ラス之カ確立ニハ今後幾多ノ塵埃

42. - 200
300
20,000

紛糾ヲ生スハシ、

(イ) 優勢ナル軍備ヲ有スルモ之カ進攻據點ノ喪失ハ其ノ價値ヲ大イニ減殺ス

(ロ) 英ノ戰爭遂行能力ハ海上輸送力ニ依存スルトコロ益メテ大ナリ

(ハ) 米ノ海上輸送能力ハ國力ニ比シ貧弱ニシテ援英ニ徹底シ得ス

(ニ) 米英ノ遮斷分離カ其ノ戰爭遂行能力ニ及ホス影響ハ日獨間遮斷分

離ノ比ニアラス

(ホ) 英國ハ自治領地^也民地等トノ遮斷分離ニヨリ遂ニ崩壞ヲ來ス虞アリ

(ヘ) 米英國民ハ生活程度高ク之カ低下ハ其ノ頗ル苦痛トスルトコロニ

シテ戰後ノ希望ナキ戰爭繼續ハ社會不安ヲ醸成シ一般ニ士氣ノ衰

頹ヲ招來スヘシ殊ニ茲ノ敗戦カ米ニ及ホス影響ハ極メテ大ナリ

S 1.7.0.0 - 52

212

(ハ) 米英ノ結合ハ自然ナルモ米英「ソ」ノ提携ハ不自然ニシテ其間幾

多ノ矛盾ヲ有ス

(ニ) ルーズベルト「チャーチル」ノ政策ハ動トモスレハ投機買

險ニ墮シ國民必スシモ其ノ指導ニ悅服シ居ラス

S 1.7.0.0 - 52

213

第三「ソ」聯ノ戦争遂行能力

一 現状ニ於テハ低裝備ノ組織約二〇〇師團ヲ以テスル東西兩正面同時

作戦ノ遂行ハ作戦可能ナルヘシ

二 高架索ノ喪失ハ「ソ」聯ノ物的抗戦力ニ大ナル低下ヲ來スヘキモ差

當リ本年對獨戦ノ遂行ハ支障ナカルヘシ

三 若シ「ソ」軍ニシテ長ク「レニングラート」「モスクワ」附近ヲ

確保スルニ於テハ本年秋頃迄ニ其ノ能力ヲ若干(今秋頃ニハ開戦前

ノ七割程度)向上スヘキモ爾後ノ増勢度ハ極メテ緩慢ナルヘシ

(1) 人的資源豊富ナリ

(2) 今春頃ノ軍需工業能力ハ獨「ソ」開戦前ノ約五割ナリ

(3) 糧食ハ本年ハ十分ナリ

(4) 旺盛ナリ

(5) 「スターリン」ニ對スル信望厚ク軍民共ニ目下ノトコロ抗戦意戦

旺盛ナリ

第三、獨伊ノ戦争遂行能力

一、獨國

現國力ヲ概ネ維持シ得ヘシ、

(イ) 對「ソ」攻勢作戰遂行ニハ差當リ支障ナシ然レトモ本年度内ニ

「コーカサス」作戰終結セサレハ爾後大規模ナル作戰ヲ實施ス

ルタメニハ石油資源不足スル虞アリ

(ロ) 人的資源及軍需工業能力ハ十分ナリ

(ハ) 糧食ハ勢力圈内ノ需^ヲ概ネ充實シ得

(ニ) 「ヒットラー」ニ對スル信望厚ク軍民共ニ戰爭意志旺盛ナリ

二、伊國

伊ノ戦争遂行能力ハ獨ニ依存スル所少クカラス

獨伊間ノ交通確保セラルル限り伊ハ其ノ戦力維持ニ大ナル困難ナカ

ルヘシ

第四、物の見地

一、帝國戦力ノ推シヨリ於テ總噸數百噸以上ノ汽船ニ依リ輸送シ
 帝國的國力ノ推シヨリ於テ總噸數百噸以上ノ汽船ニ依リ輸送シ
 帝國的國力ノ推シヨリ於テ總噸數百噸以上ノ汽船ニ依リ輸送シ
 帝國的國力ノ推シヨリ於テ總噸數百噸以上ノ汽船ニ依リ輸送シ
 帝國的國力ノ推シヨリ於テ總噸數百噸以上ノ汽船ニ依リ輸送シ

既計畫ニ依リ陸軍解備中主ノ萬噸噸ヲ解備セサル場合

軍備用船腹ヲ全部解備セス現在ノ儘繼續スル場合

ニツキ檢討スルニ次ノ如シ

(一) 年間トシテ考察スルニ(別表其ノ一)

(i) 場合ハ南方物資ノ計畫量ヲ處理スルノ外順次遞増ス 但シ十
 九年度ニ至ルモ通常状態ニ到達シ得ス

(ii) 場合ハ南方物資ノ計畫量ヲ處理スルコト困難ナルノ際十九年度
 ニ於テ漸ク十六年度程度ニ恢復スルニ過キス

(iii) 場合ハ物資動員ヲ處理スルコト全ク困難ナリ

(ii) 上半期、下半期トシテ考察スルニ何レモ下半期ハ良好トナルモ上半
 期ハ極メテ悲觀的ナリ(別表其ノ二)

新造

十八年度 (四四) 既計畫ニ依リ
 十九年度 (四五) 既計畫ニ依リ
 二十年度 (四六) 既計畫ニ依リ

軍備用船腹ヲ全部解備セス現在ノ儘繼續スル場合

ニツキ檢討スルニ次ノ如シ

(一) 年間トシテ考察スルニ(別表其ノ一)

(i) 場合ハ南方物資ノ計畫量ヲ處理スルノ外順次遞増ス 但シ十
 九年度ニ至ルモ通常状態ニ到達シ得ス

(ii) 場合ハ南方物資ノ計畫量ヲ處理スルコト困難ナルノ際十九年度
 ニ於テ漸ク十六年度程度ニ恢復スルニ過キス

(iii) 場合ハ物資動員ヲ處理スルコト全ク困難ナリ

(ii) 上半期、下半期トシテ考察スルニ何レモ下半期ハ良好トナルモ上半
 期ハ極メテ悲觀的ナリ(別表其ノ二)

即チ
(イ)ノ場合ハ十七年度上半期ハ物資動員困難ナリ
(ロ)ノ場合ハ十七年度上半期、十八年度上半期共ニ物資動員困難ナリ

B 1.7.0.0 - 52 220

REEL No. A-1214

註 十六年度下半年ハ軍動員ノ關係上半年ニ比シ著シク輸送量減シアリ

對十六年度同期量				
%				
下半年期	上半年期			
(四) (イ)	(四) (イ)			
一 二 〇	一 五 五	六 四	七 八	十七年度
一 四 〇	一 七 〇	八 六	一 〇 〇	十八年度
一 七 〇	二 〇 〇	一 〇 〇	一 一 〇	十九年度

別表其二

8 1.7.0.0 - 52

222

註 通常狀態量トハ十七年度八〇〇〇萬應ト推定シ十八年度ハ右ノ一割増十九年度ハ同二割増トセルモノナリ

源資方南	印佛泰及支滯日							
	對計畫量		對通常狀態量		對十六年度量			
%		%		%				
(ハ) (四) (イ)	(ハ) (四) (イ)	(ハ) (四) (イ)	(ハ) (四) (イ)	(ハ) (四) (イ)	(ハ) (四) (イ)			
一 八	一 八	五 〇	三 六	五 六	六 三	五 九	一 〇 〇	十七年度
九	二 五	〇	三 七	五 七	七 〇	六 七	一 〇 〇	十八年度
六 七	六 七	〇	四 二	六 三	七 二	八 四	一 一 〇	十九年度

別表其一

8 1.7.0.0 - 52

221

第五結 論

樞軸側ト反樞軸側トノ戦争遂行能力ヲ綜合比較スルニ左ノ如ク概言
シ待ヘシ

樞軸側ハ

(イ) 現有武力ニ於テ優ル

(ロ) 相互ノ交通連絡困難

反樞軸側ハ

(イ) 經濟力ニ於テ優ル

(ロ) 相互ノ交通連絡容易

而シテ東西共ニ緒戦ノ武力戦ニ於テ敗退セル反樞軸側ハ己レノ經濟力
ヲ持ミテ專ラ長期持久戦ニ望ミヲ囑シ戦力向上ノ機ヲ俟テ總反撃ニ

轉スルノ企圖ノ下ニ目下一體トナリテ戦力ノ整備擴充ニ全力ヲ傾注
シアリテ兩三年後ノ戦力増強ハ蓋シ見ルヘキモノアリト言ヘシ
然レトモ將來日獨伊間ノ交通自由トナリ三國カ密接ニ協力シ得ルニ至
ラハ樞軸側ニ執リ極メテ有利ナル情勢ヲ招致スルニ至ルヘシ

樞軸側ト考エ漸次口防・海軍力ヲ強化シ
彈力ヲ増進スル

参考資料

印度

一、印度ハ米英ノ援助ヲ得テ其ノ戦力ノ増強ニ努ムベシ

二、英ト印度「コンダレス」派トノ交渉ハ米ノ援助ヲ得テ其ノ戦力ノ増強ニ努ムベシ

三、但シ英印妥協ノ成立ニ依リ印度ノ抗戦力ガ急速ニ上昇スルコトナ

カルベシ

四、印度ニ於ケル反英運動ノ積極化ノ爲ニハ既定計畫ノミニテハ十分

ナラス

及印度ノ戦力

米ノ援助ヲ得テ其ノ戦力ノ増強ニ努ムベシ

説明

一、米英ノ印度援助ハ主トシテ印度重工業ノ擴張ニ要スル資材及技術ノ供給ト印度ニ於テ自給シ得ザル軍需品（航空機、戦車、對空對戦車火砲等）ナルベシ

印度軍ノ被服並小銃及機關銃ハ完全ニ自給シ得ベク野山砲モ略々自給シ得ベシ

二、英ハ印度大衆ノ甘心ヲ得ル爲メト且ハ國內一部（「クリップス」ノ入閣ハ注意ニ値ス）及米ノ壓迫ニ依リ印度ニ對シ政治的讓歩ヲ爲スヲ餘儀ナクセラルベク、米國仲介ノ勞ヲ執ルニ於テハ英印間ノ妥協ハ可能ナルベシ

（從來印度ノ全「インテリ」階級ノ米ニ對スル憧憬心ハ極メテ深

キモノアリ、印度ニ於ケル英帝國主義ノ暴狀ヲ世界ニ紹介セルハ
日本ニテモ猶逸ニテモ非ズ實ニ米國ノ文筆家ナリシヲ印度ノ「イ
ンテリ」ハ忘レ居ラズ而モ彼等ノ理想ハ印度ヲ政治的ニモ經濟的
ニモ米國ノ如クスルニ在リテ今後米印關係ノ發展ハ注意ノ要アリ
三、今後印支關係ハ印支「ルート」ノ開發計畫竝ニ英印妥協ニ關スル
將ノ仲介等ニ關聯シ漸次緊密化スベシ

四、右英印妥協ノ成立竝ニ米印、印支關係ノ緊密化ハ印度政治家ノ反
獨、親「ソ」、親米、親支的傾向ニ鑑ミ日獨伊ノ謀略工作ノミニ
依リテハ阻止スルコト不可能ナリ、

五、英印妥協成立ノ結果急速ニ印度折戦力ハ増加スルコト無キモ印度
ノ募兵ハ今後幾分容易トナルベク「ウエーヴェル」ノ立案セル印

B 1.7.0.0 - 52

227

度軍二百萬計畫ノ實現モ可能トナルベシ（現在印度軍ハ訓練中ノ
モノヲ加ヘ約百萬中約二十萬ハ埃及「イラク」及「イラン」ニ
約十萬ハ緬甸以東ニ在リト認メラル）

六、全印人口ノ四分ノ一弱ヲ占ムル回教徒ハ從來概ネ英國ニ頼リテ其
ノ地位ヲ維持シ來リ戰爭協力ニ付テハ對印度教徒ノ保障ヲ條件ト
シ居ル處英ト「コングレス」妥協ノ結果回教聯盟ニ屬スル回教徒
ハ動搖スベク又全印ノ面積ニ於テ約四割六分人口ニ於テ約二割五
分ヲ占ムル土侯國モ同様英ト「コングレス」派ノ妥協ニ對シ不滿
ナルベシ
然レドモ英ハ回教徒及土侯國ノ不滿ノ爲重大ナル困難ニ面スルコ
トナカルベシ

B 1.7.0.0 - 52

228



外務省

ニ、重慶政権ノ動向

一、重慶政権ハ逐次抗戦力ヲ低下シ且其財政經濟状態ハ逼迫シアルモ尙黨及軍ノ威力ヲ背景トシテ堅強ナル抗日意識ヲ堅持シ反軸陣營ノ最後ノ勝利ヲ期待シアルヲ以テ未タ抗戦意志ヲ放棄スルニ至ラサルヘシ而シテ此固益「ソ」聯トノ提携強化及印度民族トノ接近ヲ計ルト共ニ抗日陣營ノ統一ニ努力スルモノト認メラル

ニ、米英ノ援將「ルート」ノ遮断、樞軸備戰果ノ擴大其他米英「ソ」依存ノ頼ミ難キ情勢現出シ且我戦力遞増スルヲ見ルニ至ラハ遂ニ其ノ抗戦體制ノ崩壊ヲ招來スヘシ

秘

印度

各
部
に
関
し
て
の
情
報
を
基
に
し
て
の
分
析
を
行
な
す
に
関
し
て
の
説
明
を
行
な
す
に
関
し
て
の
説
明
を
行
な
す
に
関
し
て
の
説
明
を
行
な
す

一、印度ハ米英ノ援助ヲ得テ其ノ戦力ノ増強ニ努ムベシ

二、英ト印度「コングレス」派トノ妥協ハ米ノ仲介ヲ依リテ遂行ナラズ

成立スベク英ハ或ル程度ノ政治的讓歩ヲ與ヘ米之ガ實行ヲ保障シ

「コングレス」派ハ之ト交換ニ對シ獨戰争ニ全面的ニ協力スルヲ約スベシ

三、但シ英印妥協ノ成立ニ依リ印度ノ抗戦力ガ急速ニ上昇スルコトナカルベシ

四、印度ニ於ケル反英運動ノ積極化ノ爲ニハ既定計畫ノミニテハ十分ナラズ

説明

ニ、東亞政權ノ動向

一、東亞政權ハ遂次抗戰力ヲ低下シ且其財政經濟狀態ハ逼迫シアルモ
 尚黨及軍ノ威力ヲ背棄トシテ強強ナル抗日意識ヲ堅持シ反軸陣營
 ノ敗後ノ勝利ヲ期待シアルヲ以テ未タ抗戰意志ヲ放棄スルニ至ラ
 サルヘシ面シテ此面蓋「ソ」聯トノ提携強化及印度民族トノ接近
 マ計ルト共ニ抗日陣營ノ統一ニ努力スルモノト認メラル

二、米英ノ援將「ルート」ノ遮斷、樞軸備糧米ノ盡大其他米英「ソ」
 依存ノ頼ミ難キ情勢現出シ且我戰力遞増スルヲ見ルニ至ラハ遂ニ
 其ノ抗戰體制ノ崩壊ヲ招來スヘシ

外務省

印度

一、印度ハ米英ノ援助ヲ得テ其ノ戦力ノ増強ニ努ムベシ
 二、英ト印度「コンGRES」派トノ妥協ハ米ノ仲介ヲ依リテ速ニ成
 成立スベク英ハ或ル程度ノ政治的讓歩ヲ與ヘ米之ガ實行ヲ保障シ

「コンGRES」派ハ之ト交換ニ對日獨戰爭ニ全面的ニ協力スルヲ
 約スベシ

三、但シ英印妥協ノ成立ニ依リ印度ノ抗戰力ガ急速ニ上昇スルコトナ
 カルベシ

四、印度ニ於ケル反英運動ノ積極化ノ爲ニハ既定計畫ノミニテハ十分
 ナラス

説明

一、支那
 二、ヒルマタ
 三、ソ連
 四、英印
 五、米英
 六、ソ連
 七、米英
 八、ソ連

38870
H. 280
M. 90

日本ニテモ獨逸ニテモ非ズ實ニ米國ノ文筆家ナリシヲ印度ノ「イ
 ンテリ」ハ忘レ居ラズ而モ彼等ノ理想ハ印度ヲ政治的ニモ經濟的
 ニモ米國ノ如クスルニ在リテ今後米印關係ノ發展ハ注意ノ要アリ
 三、今後印支關係ハ印支「ルート」ノ開發計畫竝ニ英印妥協ニ關スル
 蔣ノ仲介等ニ關聯シ漸次緊密化スベシ
 四、右英印妥協ノ成立竝ニ米印、印支關係ノ緊密化ハ印度政治家ノ反
 獨親「ソ」、親米、親支的傾向ニ鑑ミ日獨伊ノ謀略工作ニ依リ阻
 止スルコト不可能ナリ
 五、英印妥協成立ノ結果急速ニ印度抗戰力ハ増加スルコト無キモ印度
 ノ募兵ハ今後幾分容易トナルベク「ウエーヴェル」ノ立案セル印
 度軍二百萬計畫ノ實現モ可能トナルベシ（現在印度軍ハ訓練中ノ

一、米英ノ印度援助ハ主トシテ印度重工業ノ擴張ニ要スル資材及技術
 ノ供給ト印度ニ於テ自給シ得ザル軍需品（航空機、戰車、對空對
 戰車火炮等）ナルベシ
 印度軍ノ被服竝小銃及機關銃ハ完全ニ自給シ得ベク野山砲モ略々
 自給シ得ベシ
 二、英ハ印度大衆ノ甘心ヲ得ル爲メト且ハ國內一部（「クリップス」
 ノ入閣ハ注意ニ値ス）及米ノ壓迫ニ依リ印度ニ對シ政治的讓歩ヲ
 爲スヲ餘儀ナクセラルベク、米國仲介ノ勞ヲ執ルニ於テハ英印間
 ノ妥協ハ可能ナルベシ
 （從來印度ノ「インテリ」階級ノ米ニ對スル憧憬心ハ極メテ深
 キモノアリ、印度ニ於ケル英帝國主義ノ暴狀ヲ世界ニ紹介セルハ

件-18031

モノヲ加ヘ約百萬中約二十萬ハ埃及「イラーク」及「イラン」ニ
 約十萬ハ緬甸以東ニ在リト認メラル
 六全印人口ノ四分ノ一弱ヲ占ムル回教徒ハ從來概ネ英國ニ頼リテ其
 ノ地位ヲ維持シ來リ戰爭協力ニ付テハ對印度教徒ノ保障ヲ條件ト
 シ居ル處英ト「コングレス」妥協ノ結果回教聯盟ニ屬スル回教徒
 ハ動搖スベク又全印ノ面積ニ於テ約四割六分人口ニ於テ約二割五
 分ヲ占ムル土侯國モ同様英ト「コングレス」派ノ妥協ニ對シ不滿
 ナルベシ
 然レドモ英ハ回教徒及土侯國ノ不滿ノ爲重大ナル困難ニ面スルコ
 トナカルベシ

極秘

一、歐洲（新西歐ヲ含ム）
 歐洲ハ專ラ米及英ノ援助ニ頼リテ戦力ノ増強ニ努メ、對日抗
 戰繼續ヲ企圖スベシ

二、濠洲戦力増強ノ程度ハ濠ト米英間ノ交通路ノ狀況ニ依存スベク若
 シ交通路ノ遮斷長期ニ亘ラバ増強ハ不可能トナルノミカ戦力ハ低
 下スベシ

三、濠ハ漸次對英關係ニ於テハ自主的トナルベキモ對米依存ノ度ヲ増
 スベシ

四、濠洲國防力ノ隘路ハ人口ノ少キコト及工業殊ニ重工業生産能力貧
 弱ナルコトニ在リテ其ノ強味ハ衣食ニ關シテハ如何ナル長期戦ニ
 モ對處シ得ル點ニ在リ

五 濠洲軍ハ規律ニ缺キモ兵ノ體刀精神力ニ於テ英帝國兵中隨一ナルハ定評アリ

明 說

一 米及英ヨリノ對濠援助ハ財政的援助、軍需品ノ供給ノミナラズ

米艦隊一部ノ派遣ハ勿論米陸軍、空軍部隊ノ進駐ヲモ含ムベシ

(濠洲ノ東方水面ハ米國ノ指揮下ニ入りタル事既ニ公表セラレ

タリ)

二 濠洲ハ人口構成上比較的壯年者多キコト及一般ニ「スポーツ」

極メテ盛ナル爲動員能力比較的ニ高キモ人口僅ニ七百萬ニ過キ

夫ノ「^アア^シ」^カス現在濠洲内ニ在ル兵力ハ精々十五萬ヲ超ヘザルベク動員餘力

僅カニ八千人ハ約四十萬程度ナルベシ

才一強西... 七北了... 一三三...

ケ日島名... 七北了...

三 總動員兵力ニ對スル裝備ニ付テハ航空機、戰車、對空及對戰車
火砲ハ勿論小銃機關銃ニ至ル迄海外ヨリノ輸入ニ俟ツノ要アル

ベシ

四 鐵鋼年産約三十萬噸程度ト推定セラル右増産並ニ精密機械工業

ノ今後ノ發展ハ一ニ米英ヨリノ技術及資材供給ニ俟タザルベカ

ラス

五 濠洲ハ石油「ゴム」ニ付專ラ海外ニ依存シ來レリ

三三...

六 濠洲ノ人口分布状態ニ鑑ミ濠洲ノ人口稀薄ナルハ或ル意味ニ於

テ濠洲國防力ノ強味ヲ示スモノナルニ注意ヲ要ス、即チ全人口

七百萬ハ三百萬平方哩ノ濠洲全土ニ均分ニ稀薄ニ分配セラレ居

ラス其ノ半數以上ハ「シドニー」「メルボルン」「ブリスベン」

74 投票板 1. 決色
73 { 36 労働党
36 地方党 決色
1 中立

「アテレード」「バース」等ノ都市附近ニ集中シ店リ謂ハバ谷
都市ハ濠洲ト稱スル大洋中ノ大小ノ孤島ノ如キ感アリ且各州間
ノ競争意識極メテ強ク人爲的施策ニヨリ各州ハ或程度ノ孤立經
濟ヲ營ミ得ル状態ニ在ルヲ以テ濠洲ノ中樞部タル「シドニー」
「メルボルン」附近ニ大打撃ヲ與フルカ又ハ之ヲ占據スレバ裕
別「ボートダウイン」ハ勿論「ブリスベン」「アテレード」
「バース」位ニ大打撃ヲ與ヘタリトテ濠洲ハ直チニ屈服スト判
斷スルハ早計ナリ
セ現在聯邦政權ハ労働黨ノ手中ニ在ル處労働黨ハ下院ノ絶對多數
ヲ占メ居ラザル爲其ノ基礎強固ナラズ而シテ労働黨ハ聯合濠洲
黨（舊國民黨、保守的政黨ニシテ工業ト農牧業ノ一部ノ聯合勢

カラ代表ス）或ハ地方黨（主トシテ農牧業ノ利益ヲ代表ス）ニ
比スレバ英國中心主義ノ程度低キモ他方日本品ノ輸入抑壓或ハ
白蠟主義ニ付テハ他ノ二政黨ニ比シ遙ニ強キ主義ヲ有シ又「ナ
チ」政權ノ樹立以來其ノ反獨的傾向極メテ顯著ナルモノアリ
ハ濠洲全人口ノ四分ノ一強即約百五十萬ハ愛蘭系ナルモ愛蘭系
洲人カ反英的ナリト即斷スルヲ得ズ今後愛蘭系濠洲人ノ動向ハ
多分ニ愛蘭系米蘭人ノ對世界戰爭動向ニ依リ支配セラルベシ

極右人 努力人 (カス) 前首相ハ極右人
新西南 百五十万 | 金島胆味 | 藍工業
牧畜 酪農

極秘

参考資料

濠洲（新西蘭ヲ含ム）

(三月七(日))

一、濠洲ハ専ラ米及英ノ援助ニ頼リテ戦力ノ増強ニ努メ飽ク推轉日抗

戦繼續ヲ企圖スベシ

二、濠洲戦力増強ノ程度ハ濠ト米英間ノ交通路ノ状況ニ依存スベク若

シ交通路ノ遮斷長期ニ亘ラバ増強ハ不可能トナルノミカ戦力ハ低

下スベシ

三、濠洲ハ漸次對英關係ニ於テハ自主的トナルベキモ對米依存ノ度ヲ

増スベシ

四、濠洲國防力ノ隘路ハ人口ノ少キコト及工業殊ニ重工業生産能力貧

弱ナルコトニ在リテ其ノ強味ハ衣食ニ關シテハ如何ナル長期戦ニ

モ對處シ得ル點ニ在リ

S 1.7.0.0 - 52

239

五、濠洲軍ハ規律ニ缺ケ最高統帥ニ於テ劣ルモ兵ノ體力精神力ニ於テ
英帝國兵中隨一ナルハ定評アリ

説明

一、米及英ヨリノ對濠援助ハ財政的援助、軍需品ノ供給ノミナラズ

米艦隊一部ノ派遣ハ勿論米陸軍、空軍部隊ノ進駐ヲモ含ムベシ

（濠洲ノ東方水面ハ米國ノ指揮下ニ入りタル事既ニ公表セラレ

タリ）

二、濠洲ハ人口構成上比較的壯年者多キコト及一般ニ「スポーツ」

極メテ盛ナル爲動員能力比較的ニ高キモ人口僅ニ七百萬ニ過キ

ス現在濠洲内ニ在ル兵力ハ精々十五萬ヲ超ヘザルベク動員餘力

ハ約四十萬程度ナルベシ

S 1.7.0.0 - 52

240

三、總動員兵力ニ對スル裝備ニ付テハ航空機、戰車、對空及對戰車
火砲ハ勿論小銃機關銃ニ至ル迄海外ヨリノ輸入ニ俟ツノ要アル
ベシ

四、鐵鋼年産約三十萬噸程度ト推定セラル右増産竝ニ精密機械工業
ノ今後ノ發展ハ一ニ米英ヨリノ技術及資材供給ニ俟タザルベカ
ラズ

五、濠洲ハ石油「ゴム」ニ付専ラ海外ニ依存シ來レリ

六、濠洲ノ人口分布状態ニ鑑ミ濠洲ノ人口稀薄ナルハ或ル意味ニ於
テ濠洲國防力ノ強味ヲ示スモノナルニ注意ヲ要ス、即チ全人口
七百萬ハ三百萬平方哩ノ濠洲全土ニ均分ニ稀薄ニ分配セラレ居
ラス其ノ半数以上ハ「インドネー」
「メルボルン」
「ブリスベン」

B 1.7.0.0 - 52

241

「アデレード」
「パース」等ノ都市附近ニ集中シ居リ請ハバ各
都市ハ濠洲ト稱スル大洋中ノ大小ノ孤島ノ如キ感アリ且各州間
ノ競争意識極メテ強ク人爲的施策ニヨリ各州ハ或程度ノ孤立經
濟ヲ營ミ得ル状態ニ在ルヲ以テ濠洲ノ中樞部タル「インドネー」
「メルボルン」附近ニ大打撃ヲ與フルカ又ハ之ヲ占據スレバ格
別「ボートダーウイン」ハ勿論「ブリスベン」
「アデレード」
「パース」位ニ大打撃ヲ與ヘタリトテ濠洲ハ直チニ屈服スト判
斷スルハ早計ナリ

七、現在聯邦政權ハ労働黨ノ手中ニ在ル處労働黨ハ下院ノ絶對多數
ヲ占メ居ラザル爲其ノ基礎強固ナラズ而シテ労働黨ハ聯合濠洲
黨（舊國民黨、保守的政黨）ニシテ工業ト農牧業ノ一部ノ聯合勢

B 1.7.0.0 - 52

242

極秘

部ノ内第 號

第一問題

世界情勢判斷

昭和十七年三月七日
連絡會議決定

S 1.7.0.0 - 52

244

カヲ代表ス）或ハ地方黨（主トシテ農牧業ノ利益ヲ代表ス）ニ
比スレバ英本國中心主義ノ程度低キモ他方日本品ノ輸入抑壓或
ハ白濠主義ニ付テハ他ノ二政黨ニ比シ遙ニ強キ主張ヲ有シ又「
ナチ」政權ノ樹立以來其ノ反獨的傾向極メテ顯著ナルモノアリ
八、濠洲全人口ノ四分ノ一弱即約百五十萬ハ愛蘭系ナルモ愛蘭系濠
洲人カ反英的ナリト即斷スルヲ得ズ今後愛蘭系濠洲人ノ動向ハ
多分ニ愛蘭系米國人ノ對世界戰爭動向ニ依リ支配セラルベシ

S 1.7.0.0 - 52

243

イ、米英側ノ執ルヘキ方策

米英ハ今後軍事的經濟的財政的其他各方面ニ於ケル協力ヲ益々緊密化シ一體トナリテ樞軸側戦力ノ低下ニ努メツツ他面自己戦力ノ急速増強ヲ圖リ先ツ其ノ對樞軸戦争指導ノ重點ヲ歐洲ニ置キ「ソ」聯ト相提携シテ該方面ノ戦局ヲ有利ニ展開セシムルト共ニ對日反撃進攻據點ノ確保強化ニ努メ優勢ナル兵力ヲ保有スルニ至ラハ一舉對日反攻ヲ企圖スヘシ

即チ

(一) 差當リ英ハ米「ソ」ト相携ヘテ先ツ速ニ獨伊戦力ノ撃破ヲ圖ルト

共ニ地中海及西亞方面ヲ確保シ日獨伊ノ提携阻止ニ努ムヘシ

尙英ハ東洋方面ニ於テハ對日反撃並ニ英帝國結合保持ノ爲メ極力

S 1.7.0.0 - 52

245

印度洋ノ制海權及印度並ニ濠洲ノ確保ニ努ムヘシ

(二) 差當リ米ハ英「ソ」ト相携ヘテ先ツ速ニ獨伊戦力ノ撃破ヲ圖ルト

共ニ濠洲及印度洋方面ニ於テハ對日反攻據點ノ確保強化ニ努メ且

有力ナル海上及航空兵力ヲ太平洋方面ニ集中シ其ノ一部ヲ以テ我

カ海上交通ノ妨害日本ノ中樞地區ニ對スル奇襲其ノ他各種「ゲリ

ラ」戦ノ實施ニ努ムヘシ

(三) 米英ハ後「ソ」援將ニ力ヲ盡スヘク他方「ソ」ノ對日牽制行動乃

至ハ參戰ニ多大ノ期待ヲ掛ケ極力之カ實現ニ努メツツ差當リ密カ

ニ東部「ソ」領ニ對日進攻據點ノ獲得ヲ策スヘシ

四 米英ハ戦力向上ノ時機ヲ見テ對樞軸大規模攻勢ニ轉スヘク之カ爲

日本ニ對シテハ「ソ」支ト提携シテ大陸方面ヨリ直接我中樞部ヲ

S 1.7.0.0 - 52

246

衝クニ努メツツ主力ヲ以テ濠洲及印度洋方面ヨリ逐次戦略要點ヲ奪回反撃シ來ル算大ナリ
而シテ其大規模攻勢ヲ企圖シ得ヘキ時機ハ概ネ昭和十八年以降ナルヘシ

参考

(一) 濠洲(新西洲ヲ含ム)ノ情勢

- 一 濠洲ハ專ラ米及英ノ援助ニ頼リテ戦力ノ増強ニ努メ執拗ニ對日抗戰繼續ヲ企圖スベシ
- 二 濠洲戦力増強ノ程度ハ濠ト米英間ノ交通路ノ状況ニ依存スヘク若シ交通路ノ遮断長期ニ亘ラハ増強ハ不可能トナルノミカ戦力ハ低下スヘシ

- 三 濠洲ハ漸次對英關係ニ於テバ自主的トナルヘキモ對米依存ノ度ヲ増スヘシ

- 四 濠洲國防力ノ隘路ハ人口ノ少キコト及工業殊ニ重工業生産能力貧弱ナルコトニ在リテ其ノ強味ハ衣食ニ關シテハ如何ナル長期戦ニモ對處シ得ル點ニ在リ

□ 印度ノ情勢

- 一 英米ハ印度ノ防衛ヲ強化スルト共ニ印蔣關係ノ緊密化ヲ圖リ抗戰體勢ノ保持ニ努ムヘシ
- 二 今、后印蔣關係ハ援將「ルート」ノ開發計畫並英印妥協ニ關スル蔣ノ仲介等ニ關聯シ漸次緊密化スヘシ
- 三 英ハ印「ソ」印蔣關係ヲ利用シ米ノ支援ヲ得テ凡ユル手段ヲ

盡シテ印度民衆ヲシテ對樞軸戰爭ニ全面的ニ協力セシムルコトニ努ムヘシ

四 印度ニ於ケル反英運動ハ樞軸側ノ戰果ノ擴大特ニ帝國ノ「ピルマ」占領竝日獨ノ印度孤立化方策實現スルニ於テハ樞軸側ノ對印内部工作ト相俟ツテ其ノ積極化ヲ見ルノ可能性アリ

S 1.7.0.0 - 52 .249

ロ、「ソ」聯邦ノ採ルヘキ方策

一「ソ」聯邦ハ世界長期戦化ヲ目途トシツツ米英トノ提携協力ヲ強化シ對獨抗戦ニ専念スルニ努ムヘシ

此間「ソ」聯邦ハ差當リ帝國ニ對シ現状ヲ維持センコトヲ努ムヘシ然レトモ米英ノ強要ニ依リテハ對日參戰ノ虞無シトセス特ニ春季獨「ソ」戦カ「ソ」聯ニ有利ニ進展シタル場合ニハ帝國ノ對米英戦ノ推移ニ伴ヒ帝國ノ戦力カ低下シ又ハ其ノ彈撥力ヲ失フニ於テハ米英ト連繫スル「ソ」聯邦ノ對日參戰ヲ誘發スルノ算大ナリ又我カ對「ソ」武力行使必至ト判断セル場合ニハ米ニ軍事基地ヲ供與スルト共ニ彼ヨリ進ンテ機先ヲ制シ奇襲的攻撃ヲ敢行スルノ虞尠カラズ

S 1.7.0.0 - 52 250

ニ東部「ソ」領ニ於ケル現兵力（狙撃師連約二〇 戦車約一〇〇〇
飛行機約一〇〇〇）ハ日「ソ」間ノ現状變化ナキ限り本春以降ニ
豫想セラルル獨「ソ」戦況ノ推移如何ニ拘ラス大ナル變化ナカル
ヘシ

三「ソ」聯邦ハ援蔭行爲ヲ續行スルノ外我領導下ノ諸民族ニ對シ主
トシテ思想戰ニ依リ擾亂ヲ策スヘシ

四現情勢ニ於テハ獨「ソ」和平ノ可能性ナカルヘシ

ハ、獨伊ノ採ルヘキ方策

- 一獨軍ハ本冬間概ネ對「ソ」攻勢準備ヲ整ヘ得ヘク本年春夏ノ候
ニ於テ對「ソ」攻勢ヲ再興スヘシ但本年中ニ「ソ」聯兵力ヲ徹底
的ニ潰滅スルハ至難ナルヘク又之ニ依リ「スターリン」政權崩壞
ノ可能性ハ見込ナカルヘシ此間速カニ高架索ノ占領ヲ企圖スヘシ
- 二獨ハ其ノ高架索作戦ノ進展ニ伴ヒ西亞ニ於ケル英勢力ノ一掃ヲ企
圖シ帝國トノ連繫ニ努ムヘシ
- 三右作戦ノ規模及進展ノ様ハ一ニ「ソ」軍抗戦力ノ恢復程度及獨
軍ノ攻勢準備完整程度並土國ノ向背如何ニ懸ルモノニシテ今邊ニ
豫想シ難シ
- 四對英本土上陸作戦準備ハ依然之ヲ整ヘツツアルモ英ノ屈伏崩壞ノ

徴到來セサル限り當分進テ之ヲ敢行スルコトナカルヘシ
但大西洋方面ニ於テハ依然對英封鎖ニ重點ヲ置キツツ逐次對米海
上交通破壊戰ヲ強化スヘク其效果ハ相當ニ期待シ得ヘシ
四 佛國ニ對シテハ逐次之ヲ樞軸陣營ニ包圍スルニ努ムヘシ
五 現情勢ニ於テハ獨「ソ」和平ノ可能性ナカルヘシ

8 1.7.0.0 - 52 253

ニ、重慶政權ノ動向

一 重慶政權ハ逐次抗戦力ヲ低下シ且其財政經濟状態ハ逼迫シアルモ
尙黨及軍ノ威力ヲ背景トシテ鞏固ナル抗日意識ヲ堅持シ反樞軸陣
營ノ最後ノ勝利ヲ期待シアルヲ以テ未タ抗戦意志ヲ放棄スルニ至
ラサルヘシ而シテ此間益「ソ」聯トノ提携強化及印度民族トノ接
近ヲ計ルト共ニ抗日陣營ノ統一ニ努力スルモノト認メラル
ニ 米英ノ援蔣「ルート」ノ遮断、樞軸側戰果ノ擴大其他米英「ソ」
依存ノ頼ミ難キ情勢現出シ且我國力遞増スルヲ見ルニ至ラハ遂ニ
其ノ抗戦體制ノ崩壊ヲ招來スヘシ

8 1.7.0.0 - 52 254

ホ、中立諸國ノ動向

一 佛國ノ動向

佛國ハ依然灰色の態度ノ持續ニ努メ對獨協力ノ積極化ハ尙躊躇ス

ヘシ

二 葡國ノ動向

葡萄牙ハ現情勢ニ於テハ其領土權カ尊重セララルル限リナルヘク長ク中立的の態度ヲ維持スルニ努ムヘシ

三 拉米ノ動向

「アルゼンチン」「チリ」ハ差當リ中立的の態度ヲ維持スヘキモ
早晚米ニ追從スルノ虞大ナリ

四 「トルコ」ノ動向

依然中立ヲ堅持スルニ努ムヘキモ本春以後獨軍ノ高架索作戰順調ニ進捗スルニ於テハ樞軸側ニ參加スルニ至ルノ公算多シ

五 西國ノ動向

西班牙ハ今直チニ樞軸側ニ參加シ得サル状態ニ在リ

へ、彼我國力推移

第一、米英ノ戦争遂行能力

一、米 國

米國ハ専ラ生産部門ノ隘路是正及國家總力戰態勢ノ確立ニ努力シ概ネ一九四四年末期ニ至ル間其ノ軍備及軍需生産能力ハ飛躍的ニ上昇スヘシ

然レトモ爾後ハ對外依存資源、勞力、輸送力等ノ不足ニヨリ生産力ノ増勢漸次停滯ノ傾向ヲ示ス可能性アリ

二、英 國

現情勢ヲ以テ推移セハ今後尙若干ノ戦力ヲ増加スヘシ然レトモ英本國ハ人的資源ニ於テ殆ント限度ニ達シアリ物的資

源亦海外特ニ米ニ依存セサルヘカラサル狀況ニアルヲ以テ制海權並屬領殖民地ノ喪失ニ伴ヒ逐次其ノ戦争遂行能力ハ低下ノ傾向ヲ示ササルヲ得サルニ至ルヘシ

三、米英戦争遂行能力ノ綜合的觀察

米英合作ノ綜合戦争遂行能力ハ強大ニシテ我ニ對シ優勢ナル戦力ヲ急成シ且長期ニ亘リ戦争ヲ遂行シ得ル能力ヲ有ス其ノ戦意モ亦一般ニ旺盛ナルモノアリト雖モ左ノ如キ幾多ノ脆弱點ヲ包藏シアリ

(イ) 人的戦力ハ物的戦力ニ伴ハサルヘシ

(ロ) 物的戦力膨大ナルモ米英特ニ米ノ政治經濟機構ハ今尙國家總力戦ニ必要ナル臨戦態勢ヲ整備シ居ラス之カ確立ニハ今後幾

多ノ摩擦紛糾ヲ生スヘシ

(イ) 優勢ナル軍備ヲ有スルモ之カ進攻據點ノ喪失ハ其ノ價値ヲ大

イニ減殺ス

(ニ) 英ノ戦争遂行能力ハ海上輸送力ニ依存スルトコロ極メテ大ナ

リ

(ハ) 米ノ海上輸送能力ハ國力ニ比シ貧弱ニシテ援英ニ徹底シ得ス

(ニ) 米英ノ遮斷分離カ其ノ戦争遂行能力ニ及ホス影響ハ日獨間遮

斷分離ノ比ニアラス

(ト) 英國ハ自治領植民地等トノ遮斷分離ニヨリ遂ニ崩壊ヲ來ス虞

アリ

(チ) 米英國民ハ生活程度高ク之カ低下ハ其ノ頗ル苦痛トスルトコ

ロニシテ戦捷ノ希望ナキ戦争繼續ハ社會不安ヲ醸成シ一般ニ
士氣ノ衰頹ヲ招來スヘシ殊ニ英ノ敗戦カ米ニ及ホス影響ハ極
メテ大ナリ

(リ) 米英ノ結合ハ自然ナルモ米英「ソ」ノ提携ハ不自然ニシテ其

間幾多ノ矛盾ヲ有ス

(ハ) 「ルーズベルト」「チャーチル」ノ政策ハ動々モスレハ投機

冒險ニ墮シ國民必スシモ其ノ指導ニ説服シ居ラス

第三 「ソ」聯ノ戦争遂行能力

一 現状ニ於テハ低装備ノ狙撃約二〇〇師團ヲ以テスル東西兩正面

同時作戰ノ遂行ハ可能ナルヘシ

(イ) 人的資源豊富ナリ

(ロ) 今春頃ノ軍需工業能力ハ獨「ソ」開戦前ノ約五割ナリ

(ハ) 糧食ハ十分ナリ

(ニ) 「スターリン」ニ對スル信望厚ク軍民共ニ目下ノトコロ抗戰

意識旺盛ナリ

ニ 高架索ノ喪失ハ「ソ」聯ノ物的抗戰力ニ大ナル低下ヲ來スヘキ

モ差當リ本年對獨戰ノ遂行ハ支障ナカルヘシ

三 若シ「ソ」軍ニシテ長ク「レニンクライト」、「モスクワ」附

近竝高架索ヲ確保スルニ於テハ本年秋頃迄ニ其ノ能力ヲ若干()
今秋頃ニハ開戦前ノ七割程度()向上スヘキモ爾後ノ増勢度ハ極
メテ緩慢ナルヘシ

第三、獨伊ノ戦争遂行能力

一、獨國

現國力ヲ概ネ維持シ得ヘシ

(1) 對「ソ」攻勢作戰遂行ニハ差當リ支障ナシ然レトモ本年度内

ニ「コーカサス」作戰終結セサレハ爾後大規模ナル作戰ヲ實

施スルタメニハ石油資源不足スル虞アリ

(2) 人的資源及軍需工業能力ハ十分ナリ

(3) 糧食ハ勢力圈内ノ需要ヲ概ネ充實シ得

(4) 「ヒットラー」ニ對スル信望厚ク軍民共ニ戰爭意志旺盛ナリ

ニ、伊國

伊ノ戦争遂行能力ハ獨ニ依存スル所少ナカラス

獨伊間ノ交通確保セラルル限り伊ハ其ノ戦力維持ニ大ナル困難
ナカルヘシ

帝國戰爭遂行能力

一 帝國カ人の戦力ニ於テ彼ニ比シ優勢ナルハ實言ヲ要セサル所ニシテ特ニ緒戦ニ於ケル戦捷ノ結果武力ニ於テモ又優位ヲ占メ得タリ然リト雖物的國力ニ於テハ樂觀ヲ許ササルモノアリテ特ニ總動員物資輸送ニ充當シ得ル船舶量ニ依リ左右セラルル所大ナリ

ニ軍徵備船舶ヲ既定計畫通り實施スルトセハ占領地域ノ開發建設ノ進捗並船舶ノ増強ト相俟チテ南方物資ノ計畫量ヲ處理スルノ外其ノ他ノ輸送量モ亦遞増シ昭和十九年ノ末期ニ至ラハ概ネ所要ノ總動員物資輸送ヲ處理シ得ヘシ

省
下
省
下

第五 結論

樞軸側ト反樞軸側トノ戰爭遂行能力ヲ綜合比較スルニ左ノ如ク概言シ得ヘシ

樞軸側ハ

(イ) 現有武力ニ於テ優ル

(ロ) 相互ノ交通連絡困難

反樞軸側ハ

(イ) 經濟力ニ於テ優ル

(ロ) 相互ノ交通連絡容易

而シテ東西共ニ緒戦ノ武力戰ニ於テ敗退セル反樞軸側ハ己レノ經濟力ヲ恃ミテ莫ラ長期持久戰ニ望ミヲ囑シ戦力向上ノ機ヲ俟テ總

反響ニ轉スルノ企圖ノ下ニ目下一體トナリテ戦力ノ整備擴充ニ全
力ヲ傾注シアリテ兩三年後ノ戦力増強ハ蓋シ見ルヘキモノアリト
言フヘシ
然レトモ帝國カ既得ノ戦果ヲ基礎トシ不敗ノ戰略態勢ヲ確立スル
ト共ニ漸時國防ノ彈發力ヲ強化シ且日獨伊間ノ交通自由トナリ三
國カ密接ニ協力シ得ルニ至ラハ樞軸側ニ執リ極メテ有利ナル情勢
ヲ招致スルニ至ルヘシ

參考資料

「ソ」聯邦ノ對西亞、印度動向如何

「ソ」聯ハ固ヨリ西亞及印度殊ニ前者ニ進出スル時機ノ到來ヲ窺ヒ
居ルモ差當リ對獨抗戰ニ專念シ且對英米關係ノ顧慮モアリ西亞及印
度ヘノ進出ヲ控フヘシ

尤モ獨ノ土耳其抱込策失敗シ、土ノ對獨抗戰ヲ見ル場合ニハ「ソ」
聯邦ハ失地回復等ヲ口實ニ英ト協同シテ土領ニ侵入スルノ可能性ナ
シトセス

外 説 明

「ソ」聯邦ノ對西亞印度政策ハ帝政時代ヨリノ傳統的政策タル地
中海、「ベルシヤ」灣海岸ヘノ出口ヲ求メントスル帝國主義政策

ニ加フルニ「ソ」聯邦トナリテノ歐洲帝國主義諸國ノ後方地帯ヲ
奪取シ被壓迫民族解放ト云フ革命政策ヲ加味セルモノニシテ現在
ハ尙「ソ」聯ハ右政策ヲ捨テタリト云フヲ得ス
ニ「ソ」聯邦ハ革命後「トルコ」「イラン」「アフガニスタン」ト
ノ間ニ中立條約又ハ通商條約ヲ締結シ此等諸國ノ歡心ヲ英佛ヨリ
自國ニ引キ付ケルト同時ニ此等諸國及印度ニ於テ共產運動ヲ使喚
シ居リタリ而テ第二次歐洲戰爭ノ勃發ト共ニ其ノ傳統政策タル「
ダーダネルス」海峽及「ベルシャ」灣ニ對スル帝國主義的關心ハ
英佛ノ勢力ノ減退ト共ニ表面化セントセルモ獨「ソ」戰ノ勃發ト
共ニ獨逸ノ西亞攻勢ニ共同ノ利害ヲ感スル英「ソ」兩國ハ妥協シ
對獨共同戰線結成スルニ至レリ

8 1.7.0.0 - 52

269

三、客年八月英「ソ」ハ共同シテ「イラン」ニ侵入シ之ヲ占領セルガ
「ソ」聯ノ勢力範圍ハ一九〇七年英露協約ニ比シ小ナリ

8 1.7.0.0 - 52

270